

◆病院の理念◆

社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します。

大阪医科大学附属病院の救急体制を紹介します



はじめに



救急医療部 科長
高須 朗

大阪医科大学附属病院救急医療部は平成13年に開設された、当院の診療科の中でも比較的新しい診療科です。救急にたずさわる医師には、急性期の限られた時間内での確に病態を把握して、迅速に緊急処置を行う能力が要求されます。救急医療を実践することで、内科・外科を問わず、さらに診療科の枠にとらわれず、横断的に多種多様な病態に対応できることを目指してきました。さらに、救急医療では、プレホスピタルや急性期医療終了後のケアを含めた社会的問題にも配慮しながら、総合的に医療に取り組む必要があります。

救急医療体制について

全国的に救急医不足の中、本年4月より救急専任医師を新たに3名増員し、救急専任医師は5名となりましたが、それでもなお、24時間、365日、救急科専門医がすべての救急患者さまに対応するのは難しく、各診療科のご支援のもと、救急当直をバックアップしていただく体制をとっています。かかりつけの患者さまの急変や、他病院で十分な検査が終了し担当科が判明している場合は、各専門担当医師がダイレクトに診療することになります。しかし、救急車やご自身で直接に来院された場合、基本的には、救急科専任医師あるいは救急科応援



医師が初療を行い、各科担当医師とコミュニケーションをとりながら、患者さまご自身、あるいはご家族の皆さまと相談して、その時にできる、番良い治療法を選択します。救急外来ではさまざまな病状や病態、訴えで幅広い患者さまが受診されますが、まず、総合的に救急科医師が診療を行い、その上で専門的治療が必要なかを判断して、各専門医にバトンタッチするのが最もスムーズな方法と考えられています。

救急外来は時間外外来ではないことをご理解ください。

救急外来は時間外外来とは違います。24時間受診可能という点で、所謂「コロン」受診として希望される方もおられますが、一刻を争う病態の患者さまを中心とした診療するのが救急外来での重要な任務ですので、救急外来では原則的に、緊急度や重症度を考慮して診療を行っております。そのため、救急外来を受診された場合、受付順番のとおりに診療が進まないことがあります。何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに

まだまだ、救急外来としての機能は十分ではありませんが、全国的に救急医不足の中、全科をあげて救急体制の改善、取り組みを行っています。地域の皆さまのお役に立てるよう、より良い救急外来体制を構築して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

かけがえのない命。 看護専門職として医療チームの調整者として、救急医療を支えます。

看護スペシャリスト
専門看護師・認定看護師の活動

Part 3



救急看護認定看護師 住 良太郎

救急看護認定看護師の役割は、思いがけなく突然に発生するさまざまな病状や怪我、中毒等により医療を受けられる緊急事態にある患者さまとそのご家族に、医師、看護師、その他の医療従事者の共同作業により医療を提供するとともに、動揺しておられる精神面のサポートを行うことにあります。

現在、日本の救急医療は、一次(風邪程度の軽症を時間外診療する)、二次(重傷でも命に即かわからない状態の診療をする)、三次(心肺停止状態のように一刻を争う状態の診療をする)に分けられています。大阪府北部地域(北摂地域)では、三次救急は大阪府三島救急医療センターが担っています。本院は以前から同センターと連携し、地域においての二次救急の役割を果たしています。また、特定機能病院として高度の先端医療を必要とする患者さまに対応するために、専門診療科とも連携して医療を提供しています。本年度からは救急隊との連携を強化し緊急搬送時間短縮をはかる目的で、院内トリアージも開始しました。トリアージナーは患者さまの重症度・緊急度を適切に判断し、治療の優先度を決定する役割があります。

ある時、心不全で救急搬送された高齢の患者さまがおられました。奥さまが同伴されましたが、大変動転しておられました。一刻を争うような緊急医療においては、ご家族は医師の治療説明に対して即座に意思決定を求められることになります。自分一人で決断することや、急激な状態の悪化に不安を表出されました。ご家族の不安に対して、患者さまとご家族の価値観を大切にして、医師と相談し

ながら情報提供を行い治療に対する予測を伝えながら、ご家族の考えを大切に意思決定ができるように援助しました。患者さまに意識はありませんでしたが手を握られ、頑張るように声をかけておられました。聴覚は最後まで残るといわれており、ご家族の患者さまへの思いは伝わったと信じています。

また本院では「院内急変コール(CPRコール)ボタン」を86箇所に設置し、患者さまの容態が急変した際の「緊急事態発生」「至急全員集合」のシステムをもっています。CPRコール発生時には、各診療科医師、救急医療部医師とともに駆けつけて救命処置を行います。このことで救命の確率は高くなっています。

地域社会活動としては、本院は災害拠点病院の指定も受けており、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team「DMAT」)としても活動しています。東日本大震災の折には、医師・薬剤師・看護師・事務職のチームで岩手県の大槌、金石地区へ滞在し、支援活動を行いました。また、高槻市健康フェアや高槻シティハーフマラソンにも協力参加し、地域住民の方々との関わりの中で、看護相談や救急活動等も行っています。

さまざまな活動を通して私が重視することは、対象となる方々がニーズを表現できるように支援し、必要な時は代弁することで権利を護り、安心してもらえるような積極的な関わりをすることにあります。その人の人生を左右するかもしれない状況において、看護専門職として、また医療チームの調整者としての役割と責任を常に自覚し意識を高めて、日々邁進していきたいと思っています。

情報コーナー

第44回 高槻まつり

去る平成25年8月3日(土)、「大阪医大おどり連」として、昨年に引き続き今年も高槻まつりに病院看護部を中心として130人参加し、高槻音頭を踊りました。今回で7回目の参加です。地域の皆さま、温かいご声援をいただき、ありがとうございました。



コラム紹介「医師の哲学」

昨年の4月より毎月、朝日新聞に「医師の哲学」と題したコラム広告を連載しています。附属病院で日々、患者さまと対峙しておられる先生方のご経験や疑問に感じられること、若い医師や未来の医師に期待することなどを語っていただいています。読者からは掲載された医師への受診に関するお問い合わせや、「毎月とても楽しみにしています」というご意見を多数いただいています。これまでに掲載されたコラムは本学ホームページでご覧いただけます。皆さまぜひ一度ご覧ください。(広報・入試部)

【医師の哲学】URL: <http://hospital.osaka-med.ac.jp/>

